

29歳で自衛官の道へ「自分を変えたい」

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、11月28日（水）から29日（木）にかけて、航空自衛隊自衛官候補生の入隊予定者を航空自衛隊熊谷基地（埼玉県熊谷市）第2教育群まで引率した。

静岡から熊谷まで向かう車内で「体力面は大丈夫だと思いますが、少し緊張しています」と話す入隊予定者は、現在29歳。入隊前は一般企業で仕事をしてきたが、今年10月に自衛官候補生の採用年齢の上限が27歳未満から33歳未満へと引き上げられたのを機に、「自衛隊で自分を変えて力を試したい」という強い思いから志願した。新たに対象となった年齢層からの入隊者は、静岡地本では2人目となる。

今回同教育群への入隊予定者は全国から集まった74人で、その内6人は27歳以上。割り当てられた居室では、入隊予定者同士が少し緊張しながらも「よろしくお願ひします」と挨拶を交わり、徐々に打ち解けていた。

午後の入隊時身体検査を終えると、「サービスの宣誓」が行われた。「航空自衛官になるんだ」という気持ちの表れが、全員がしっかりとした声で自衛官候補生の宣誓を読み上げ、74人は自衛官候補生となり自衛官への第一歩を踏み出した。

静岡地本は、送り出した入隊者たちが無事に教育隊を卒業できるよう、アフターケアを確実に実施していく。



自分の目標とするものを確かめに

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、12月3日（月）、試験艦「あすか」の体験航海に参加する県内の学生やその家族4人を引率した。

この体験航海は、将来海上自衛隊を目指す若者に隊員の働く姿を身近に感じてもらうために、横須賀から横浜へ同艦が回航するのに併せて行われたもの。

乗艦後、参加者はまず艦橋に案内され、設置してある20倍双眼鏡を通して港や町並みの景色を一望した。しばらくして出航準備が整い「出航用意」の号令が艦内にこだますと、最後の航が解かれ参加者を乗せた同艦は横浜へ向け進路を取った。

その後、参加者は多くの計器やスイッチが並び機関室、ヘリの離発着ができる後部甲板を見学。艦尾になびく自衛艦旗を前に記念撮影をしたり、乗組員に質問をしたりして海上自衛隊についての知識を深めていた。

終了後、参加者からは「体験航海を通じて隊員の働く姿を間近で見たり、話をすることができ、「自分もここで働きたい」という気持ちが強くなった」「防衛大学の入学を来年度に控え、体験航海は良い経験となった。卒業後は必ず、海上自衛官として活躍したい」などの感想が寄せられた。

静岡地本は、今後も自衛官が活動する実際の職場を研修する機会を活用し、自衛官を目指す若者に対して活力を提供できるよう努めていく。

